同和教育の基礎基本～同和問題の解消は教師にかかっている～2009.9.19 元気塾　仲島正教

よき日の為めに（※水平社創立趣意書の言葉）　私たちが今すべき事は・・・

1．なぜ私が同和教育にこだわるのか？　ノリキ、ユウジ、チェシル、ムネナリ、アイ・・のため

2．同和教育で学んだことは？　一番厳しい子を大切にする教育　人と人との温かいつながりと感動

3．誰が差別を残しているのか？　　それは大人、そして教師かもしれない

4．教師自身が自分の胸に手をあてて考えてみること　　自分も差別者ではないか

5．同和教育の営みとは　　そんな弱い心を持った自分を、人間らしい心に戻していくこと

6．同和教育は人間を育てるもの　つながり、感動、温もり、愛、優しさ・・・そして幸せを生む

7．今一度 勉強しておきたい「同和教育」のこと「同和問題」のこと　～用語と解説～

・同和教育の歴史　・水平社宣言（人の世に熱あれ、人間に光あれ）　・西光万吉　・同対審答申

・同和対策事業の法律（同和対策事業特別措置法1969～、地域改善対策特別措置法1982～地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律 1987～2002.3 失効）

・狭山裁判　・解放学級　・識字学級　・同推教員　・全同教　・同和地区　・部落史の見直し

・逆差別　・寝た子を起こすな　・差別のばらまき　・部落地名総監　・解放同盟/全解連/同和会

・結婚差別　・落書き　・全国統一応募用紙　・教科書無償化　・オールロマンス事件・八鹿高校

・今日も机にあの子がいない　・差別の現実に深く学ぶ　・堀井隆水/氷山の一角論　・３領域　等

8．人権教育と同和教育は違うのか、同じなのか？　人権教育になって「同和」はなくなったのか？

・同和問題はまだ解決していない→だから同和教育の推進力を高めようと登場したのが人権教育

・人権教育のねらいは同和教育のねらいでもある。つまり同和教育＝人権教育と考えてもよい

・人権課題（女性、子ども、高齢者、障害のある人、同和問題、外国人、ネット被害、その他）

・卒業までに、必ず「同和問題」の学習もすること。　同和を避ける教師がいるのも悲しい現実

9．人権教育と道徳教育との関係は？　　同時達成を目指すもの

・同和と道徳は、昔は「犬猿の仲」。でも今は違う。二つは同時達成する仲間である。

・学校教育の中では、二つは重なり合う部分が多いというか、ほぼ一緒だと考えてよいだろう。

・社会に出てからは、道徳はマナーで支えられ、人権は法律で守られる、という分け方になる。

・でも二つが決定的に違うのは、道徳で命は落とさないが、人権では命を落とすことがある。
人権・同和教育は「命を守る教育」ともいえるのだ。結婚差別や人権侵害で自殺の悲劇。

10.「ムラ」の子の一番の課題は、学力をつけ、進路の保障をすること。

・なんやかんや言うても、学力をつけることは最重要課題。それによって進路は広がる。学力とは狭い意味での「学力テスト」の点数を上げること。試験ができないと次に進めない現実がある。

・自学自習の習慣をつける。家庭学習ができる環境を家族に協力してもらう。家庭の文化を変える。

・あの子ならこれぐらいで十分というような低い目標設定が成長を妨げる。ムラの子も必ずできるのだ。いいモデルをつくり、見せる。必ず伸びていく。※一度は同和校に勤務してほしい。

11．学級づくりも授業づくりも人権教育そのもの。.

・地区の子と地区外の子をどうつなげていくか。「つながりと感動」が人権教育の原点になる。

・「俺は差別を許さない！」という地区外の子どもの活躍に、この教育の活路が見出される。

12．忘れられない「ムラ」の子の言葉。　　ここから私たち教師は何を学ぶのか

ユウジ「なんで俺らばかりががんばらあかんのや。がんばらなあかんのは差別する方やろ」

ムネナリの母「人間を変えるのは教育しかありません」チェシル「憂いのある人には百の愛を！」

ムラの子の友達シンイチ「差別をなくす方法は、つながること、そして相手を尊敬すること」

卒業式答辞「私たちはこの学校が大好きです。人としての強さやとびっきりの優しさがあるから」